



令和5年度 第2回高松市地域部活動検討委員会 令和6年2月21日

高松市教育委員会

令和5年度 第2回高松市地域部活動検討委員会 次第

1 開会

2 あいさつ

3 令和5年度の実証事業について

(1) 4 実証事業

(2) 学校部活動の現状

4 令和6年度の実証事業について

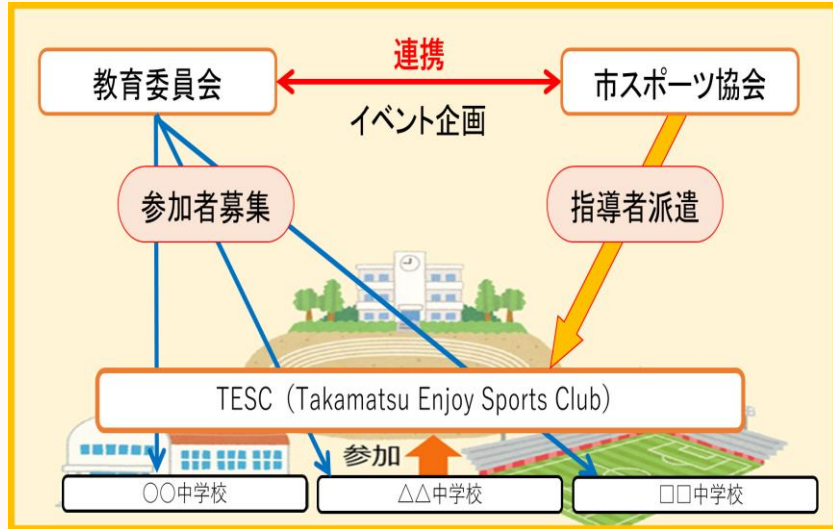
(1) 外部人材の配置強化

(2) 学校の困り感等の実態把握

(3) 実証事業

5 閉会

3-(1)令和5年度の取組について 実証事業①【市主催モデル：ストリートダンス】



① 参加者の募集方法及び申込人数

- ・ 募集方法・・・WEB申込
- ・ 申込人数・・・18人

② 活動期間（回数）

- ・ 令和5年8月～令和6年1月（全7回）
8/4・22 9/16 10/28 11/18 12/16 1/13

③ 活動時間

- ・ 14:30～16:00

④ 活動場所

- ・ 第1～4回：瓦町フラッグ内 アートステーション
- ・ 第5～7回：高松市総合体育館 第1武道場

⑤ 参加人数（延べ人数）及び参加校数

- ・ 参加人数・・・49人
- ・ 参加校数・・・10校

⑥ 指導者

- ・ 高松市スポーツ協会から派遣（1人）

実証事業①(市主催モデル)の成果と課題

= 成果 =

▷ 学校外施設の活用

①瓦町フラッグ「アートステーション」 ②高松市総合体育館「第1武道場」

- ・ 駅ビル内施設又は、駅近施設であったことから、様々な交通手段を利用して集合することができた。
- ・ 夏場（8～9月）の開催であっても、空調設備が完備されていたこともあり、熱中症事故の心配が軽減された。
- ・ 音響設備や鏡など、活動に必要な設備が整っており、活動者の満足度も高かった。

▷ 指導者

- ・ 既存の指導者派遣制度（TASS）を活用した取り組みを実現することができた。
- ・ 実施した7回の活動を同じ指導者で行うことができた。活動者の実態を理解していただいた上で指導してもらうことができたことは大きい。

= 課題 =

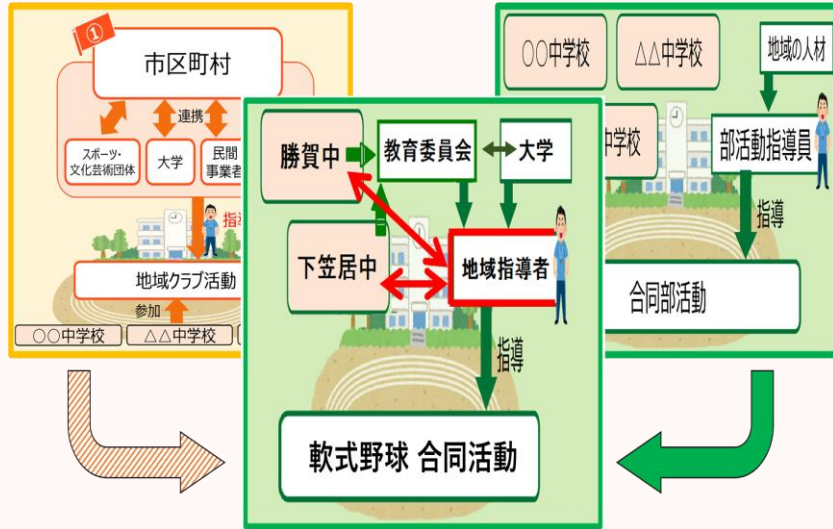
▶ 実施方法

- ・ 全7回を、前期（1～3回）と後期（4～6回）、前・後期のまとめ（7回）として実施した。前・後期間の参加は自由参加としていたこともあり、毎回違う踊りで実施することとなった。
- ※ 1つの踊りを完成させたいと考える生徒のニーズは満たすことができなかった。

▶ 参加枠

- ・ 中学生に限定した参加としていたこと。
- ※ 活動の持続性を考えた場合、参加者の限定は大きな課題となる。

3-(1)令和5年度の取組について 実証事業②【地域人材活用モデル：大学生との連携】



① 対象校及び部活動

- ・ 勝賀中学校と下笠居中学校の軟式野球部

② 活動期間（回数）

- ・ 令和5年9月～令和6年1月（全22回）

③ 活動場所

- ・ 公共スポーツ施設野球場
- ・ 市所管施設内広場
- ・ 他校の体育施設 など

④ 連携した大学生

- ・ 香川大学硬式野球部に所属した学生（4人）

⑤ 学生派遣回数及び派遣人数（延べ人数）

- ・ 9月2回（7人） 10月2回（3人）
11月1回（1人） 12月4回（9人）
1月1回（3人） **計10回（23人）**

実証事業②(地域人材活用モデル)の成果と課題

= 成果 =

▷ 学校外施設の活用

高松市所管施設（香東川浄化センター）内広場

- ・ 通常練習は、学校から20分圏内の学校外施設で他の部活動等と競合することなく使用することができる。

▷ 指導者

- ・ 4人体制（両校2人ずつ計4人の顧問）の活動を行っていたところに、学生指導者の派遣を依頼することで、部活動顧問（1～2人）が休日指導に携わらなくとも、指導者数を担保することができた。
- ・ 中学生にとっても、学生と一緒に活動してくれることで、レベルの高いプレーを身近で体験しながら学ぶことができた。※主たる指導者の考えを踏まえた、練習への取り組み方やチームメイトへの関わり方など

= 課題 =

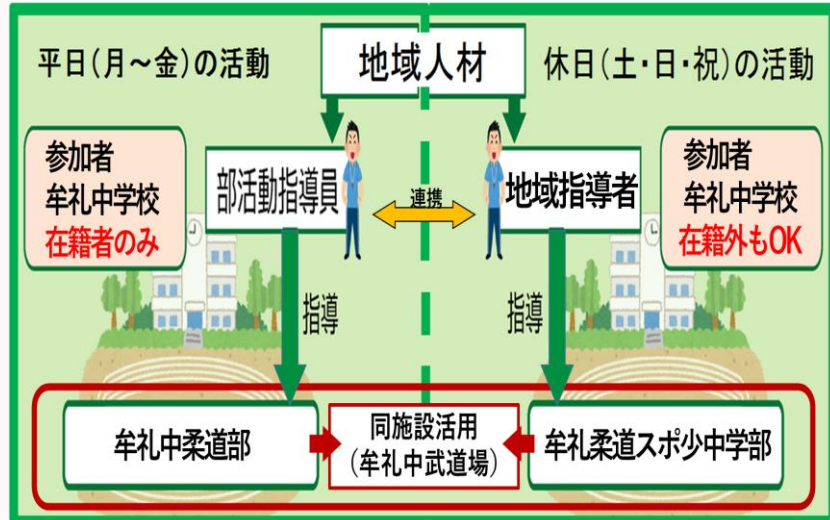
▶ 活動場所

- ・ 上記の学校外施設は、専用の活動場所として確保することができていたが、広さや設備等のグラウンド状態については厳しいものがあった。そのため、練習試合など実践的な練習を行う際は、他校の体育施設や公共のスポーツ施設を確保する必要があり、大半の週末は他校などへ遠征して活動する状況であった。

▶ 指導者

- ・ 派遣していただいた学生も、休日の活動となると自身が所属する団体の公式戦等があり、全ての活動日に地域活動の指導者として連携できるものばかりではなかった。
特に、実施時期によっては、互いの連携条件が噛み合わず、限定的な連携となることもあった

3-(1)令和5年度の取組について 実証事業③【既存団体活用モデル】



- ① 対象校及び部活動
 - ・ 牟礼中学校の柔道部
- ② 活動期間（回数）
 - ・ 令和5年10月～令和6年1月（全17回）
10月5回 11月3回 12月4回 1月5回
- ③ 連携した既存団体
 - ・ 牟礼柔道スポーツ少年団
- ④ 指導者の配置
 - ・ 牟礼柔道スポーツ少年団から（3人）
※ 1人部活動指導員、2人地域指導者として
- ⑤ 活動場所
 - ・ 牟礼中学校武道場
 - ・ 他校の体育施設 など
- ⑥ 施設の鍵管理
 - ・ 高松市牟礼総合体育館と連携

実証事業③(既存団体活用モデル)の成果と課題

= 成果 =

▷活動場所（学校施設：武道場）

- ・多くの中学校に設置されている「武道場」は、武道競技（柔道・剣道など）の専用会場として使用することができるため、他の運動部活動との競合が不要であった。
- ・牟礼中学校の武道場は、学校の敷地外から直接出入りすることができる場所に出入り口があり、近隣施設（牟礼総合体育館事務室）で施設の鍵を管理してもらっていることもあり、学校の教職員が不在であっても、施設の利用が可能であった。

▷指導者

- ・平日指導と休日指導にズレが生じないように、受け皿の母体となる「牟礼柔道スポーツ少年団」から、休日の地域活動指導者として2人、平日の部活動指導員として1人、計3人の指導者派遣が可能となった。

▷地域クラブ活動の受け皿

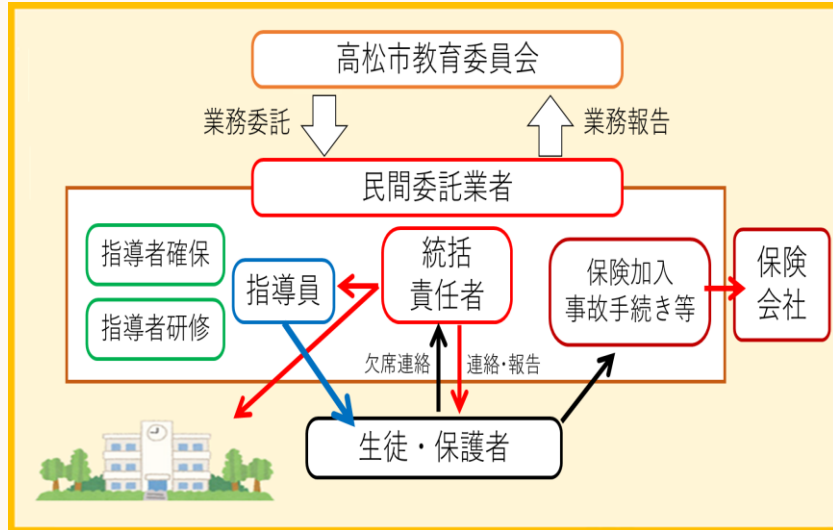
- ・次年度、「部活動」から「地域クラブ活動」へと体制を移行していけば、柔道競技の「拠点」として門戸を広げることができる。

= 課題 =

▶地域クラブ活動の受け皿

- ・母体となる「牟礼柔道スポーツ少年団」に事務局の移行と運営全般の委託
- ・学校や教育委員会との連携体制の構築
- ・将来的な受益者負担運営の支援方法

3-(1)令和5年度の取組について 実証事業④【民間委託業者活用モデル】



- ① 対象校及び部活動・・・香東中学校の吹奏楽部
- ② 活動期間（回数）
 - ・ 令和5年9月～令和6年1月（全17回）
 - 9月1回、10月4回、11月3回、12月4回、1月5回
- ③ 連携した民間業者・・・リーフラス株式会社
- ④ 指導者の配置
 - ・ 運営主体のリーフラスが求人媒体で公募を行い雇用し、指導者3人の配置を行った。
- ⑤ 活動場所・・・香東中学校音楽室 他
- ⑥ 施設の鍵管理
 - ・ 現状は校舎の工事関係で門が開いている。
 - また、他の部活動が練習をしており、校舎も開いている。※校舎の鍵管理は学校
 - ・ 学校との打ち合わせを行い、1度だけ運営主体のリーフラスが鍵管理して活動を行った。

実証事業④(民間委託業者活用モデル)の成果と課題

= 成果 =

▷ 外部指導者の導入

- ・ 専門の楽器指導を受けることができた。
- ・ 複数人の指導者が入ることによって緊張感をもって取り組み、技術の向上につながった。

= 課題 =

▶ 鍵管理

- ・ 運営主体側に全てを任せた実施ができなかった。

▶ 大会やコンクール運営

- ・ 実証事業の一環として配置指導員のみでの実施は困難であった。
実際は顧問と一緒にを行う形となり、教員負担の軽減にはつながっていない。

▶ 指導者の配置

- ・ 吹奏楽に限れば、木管、金管、打楽器と幅広い専門性が求められるため、毎回専門の指導者を配置することが難しい。

3-(2)学校部活動の現状

アンケート結果の分析 ※R5.10月の調査結果より

【生徒の回答より】

- ・ 全生徒の約90%は、何らかの部活動に所属している状況である。
- ・ 部活動への所属理由は、「**体力や技能等を高めたい**」(23.9%)、「**良い成績を収めたい**」(15.2%)と考える生徒が上位であったが、「**活動自体を楽しみたい**」(27.2%)と考える生徒が最上位の所属理由であった。
- ・ 部活動所属の困り感には、少数ではあるが「**活動場所が狭い**」(9.9%)、「**専門的な指導が受けられない**」(5.3%)、「**一度入部したらやめられない**」(5.3%)、「**入部したい部活動がない**」(3.9%)などがあった。

【保護者の回答より】

- ・ 部活動所属している生徒の保護者からは、「**活動が楽しそう**」(21.5%)、「**友だちができた**」(19.6%)と回答する保護者が約半数いることや、部活動所属の困り感も「**特になし**」(19.9%)とあるように、現状の部活動に満足している保護者の割合は多かった。
- ・ 一方で、部活動所属の困り感として、「**専門的な指導が受けられない**」(10.0%)、「**活動場所がせまい**」(7.5%)、「**入部したい部活動がない**」(3.0%)と回答する保護者も一定数おり、生徒と同様の結果であった。

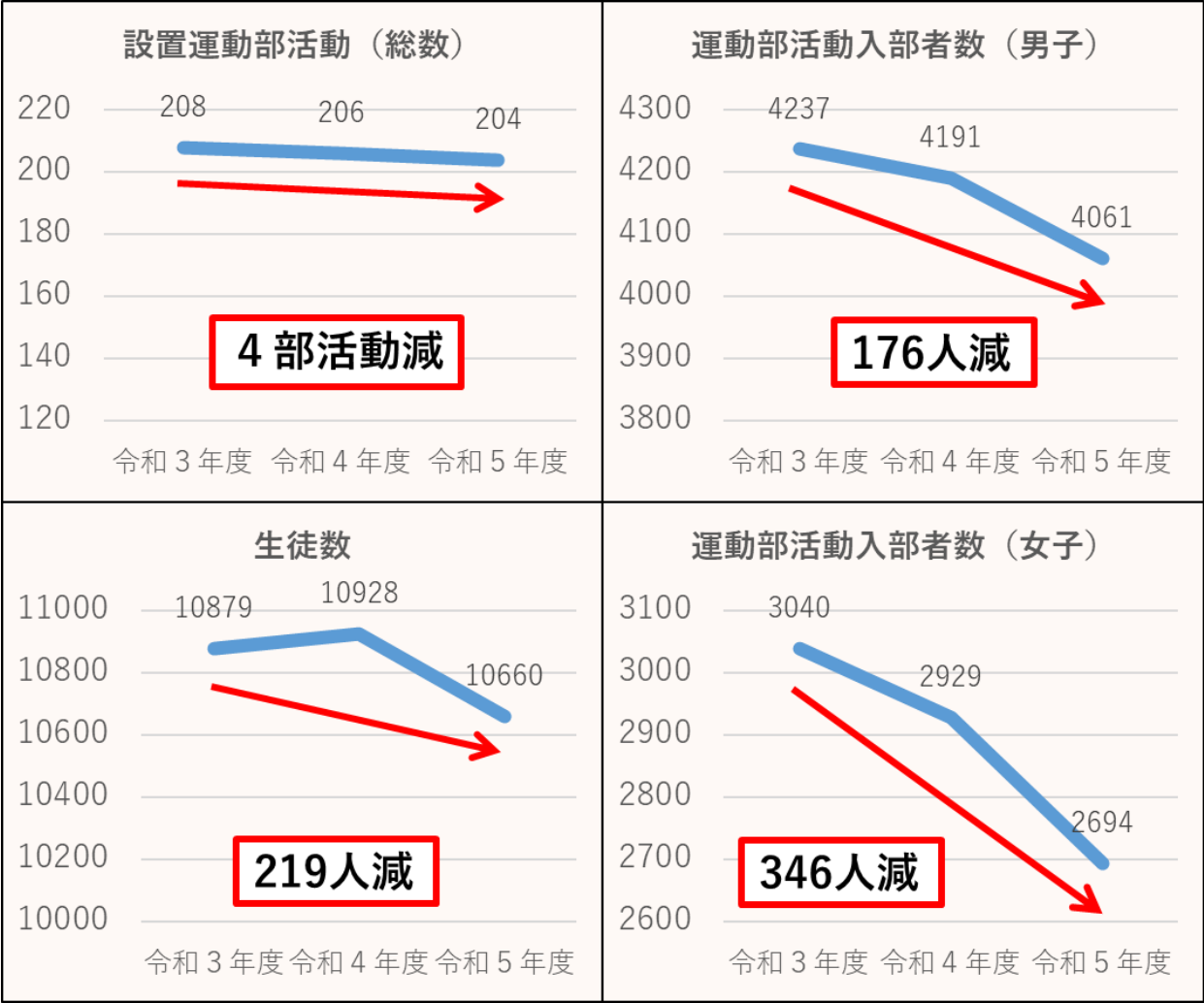
【教職員の回答より】

- ・ 部活動指導に負担を感じている教職員は60%おり、「**指導技術が伴わない**」(11.0%)や「**保護者や地域の期待**」(9.5%)などが、負担理由となっていた。
- ・ 部活動の課題として、「**教職員だけの指導に限界**」(14.8%) や「**生徒数の減少**」(5.1%)と回答する教職員が約20%いることから、単独校での部活動運営は困難となってきたことが推察できる。

3-(2)学校部活動の現状

直近3年間の状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学校数（分校を除く）	22校	22校	22校
設置運動部活動総数	208部活動	206部活動	204部活動
生徒数	10,879人	10,928人	10,660人
運動部活動入部者数	7,277人	7,120人	6,755人
入部率（全体）	66.9%	65.2%	63.4%
男子生徒数	5,590人	5,660人	5,557人
男子生徒運動部活動入部者数	4,237人	4,191人	4,061人
入部率（男子）	75.8%	74.0%	73.1%
女子生徒数	5,289人	5,268人	5,103人
女子生徒運動部活動入部者数	3,040人	2,929人	2,694人
入部率（女子）	57.5%	55.6%	52.8%
運動部活動顧問数	583人	571人	534人
専門指導者配置部活動数	175部活動	169部活動	170部活動
外部指導者配置部活動数	30部活動	24部活動	36部活動



※運動部活動調査による数値参照 ※赤字・・・前年度から減少

3-(2)学校部活動の現状

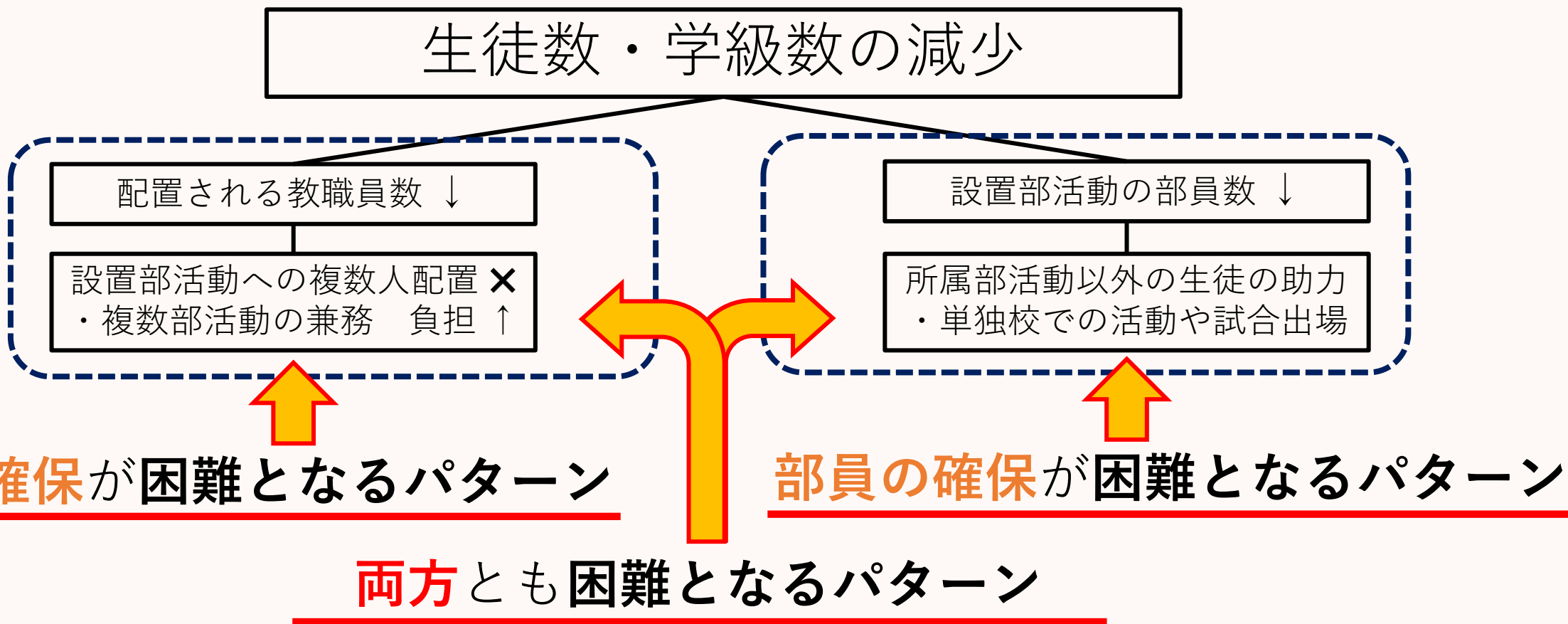
R5年度の高松地区新人体育大会 団体競技の参加状況

	A 校	B 校	C 校	D 校	E 校	F 校	G 校	H 校	I 校	J 校	K 校	L 校	M 校	N 校	O 校	P 校	Q 校	R 校	S 校	T 校	U 校	V 校
サッカー	25	20	16	5	15	30	38	23	12	24	0	0	13	22	22	34	0	18	0	8	10	24
軟式野球	18	14	17	10	13	18	18	15	5	18	3	0	11	13	12	14	0	12	0	13	0	12
ソフト（女子）	9	0	0	0	0	12	16	5	0	13	0	0	0	9	10	17	0	0	0	0	0	17
バスケ（男子）	14	16	16	8	9	16	16	11	8	15	5	0	15	16	16	16	0	14	0	15	0	16
バスケ（女子）	9	9	14	10	0	16	16	12	10	9	6	0	16	14	7	15	0	12	0	6	0	12
ハンド（男子）	15	15	0	0	0	0	15	15	0	15	0	0	15	0	15	0	1	0	0	14	0	0
ハンド（女子）	2	3	0	0	0	0	15	14	0	12	0	0	13	0	11	0	7	0	0	0	0	0
バレー（男子）	12	13	0	0	6	0	13	0	11	0	10	0	13	0	0	13	0	1	7	13	0	12
バレー（女子）	13	10	3	6	10	13	12	13	13	13	6	0	13	13	12	13	0	7	9	13	6	13

※ …合同チームで出場 …部員数が2チーム未満

3-(2)学校部活動の現状

単独校での部活動運営の状況



教職員からの声

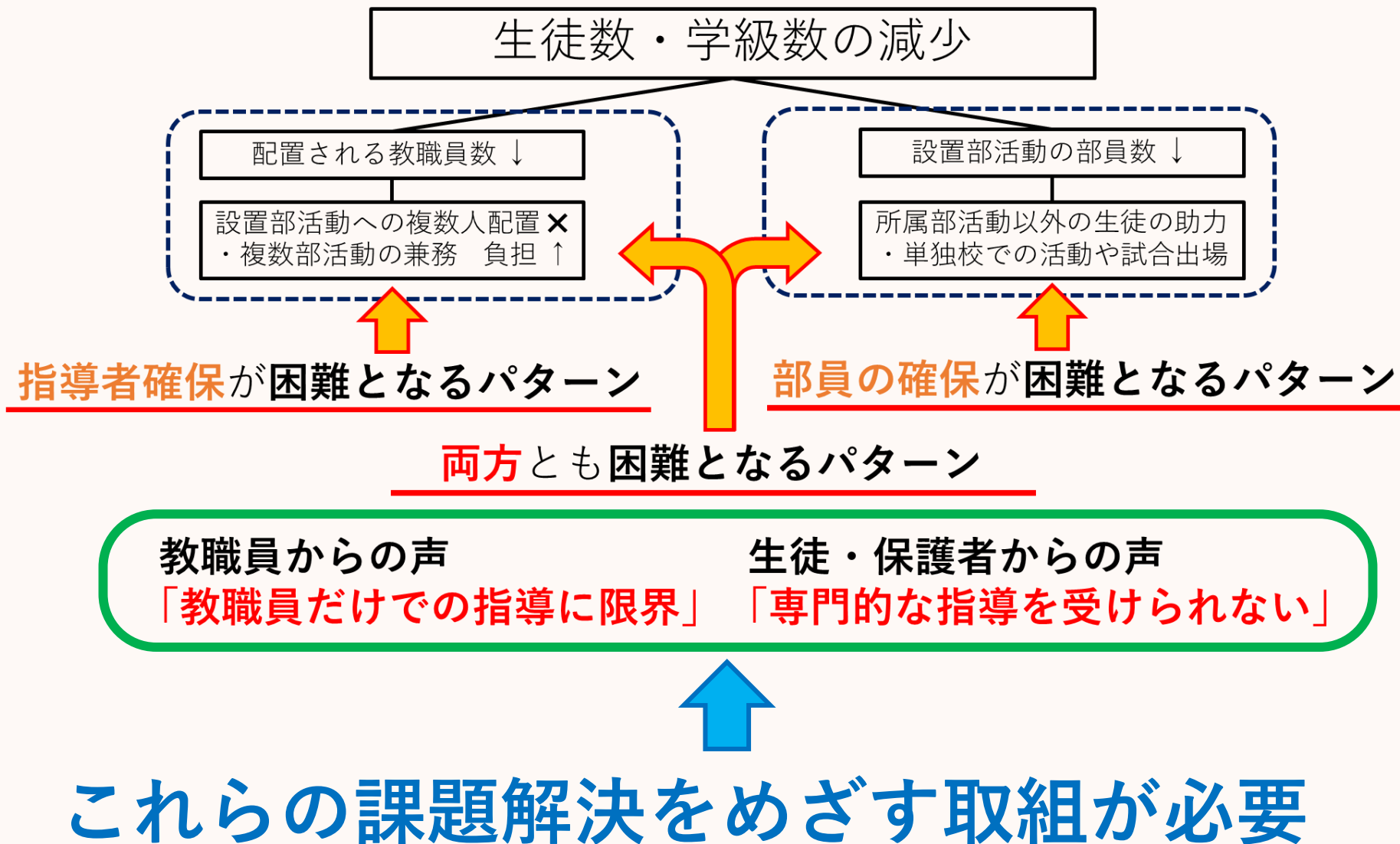
「教職員だけでの指導に限界」

生徒・保護者からの声

「専門的な指導を受けられない」

3-(2)学校部活動の現状

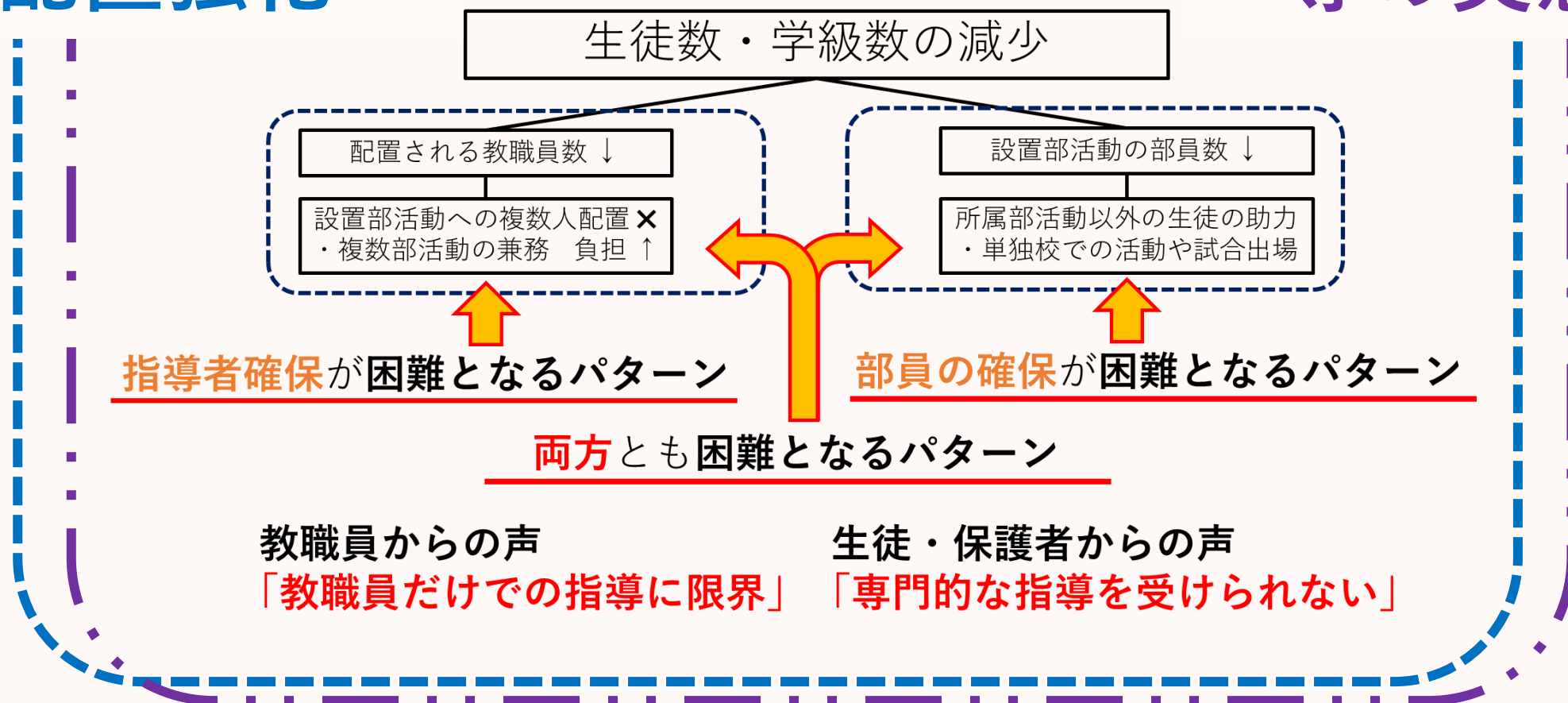
これまでの取組を踏まえた学校部活動における課題



4. 令和6年度の取組について

1. 外部人材の 配置強化

2. 学校の困り感 等の実態把握



4-(1)外部人材(部活動指導員)の配置強化

① 専門指導者による指導充実、② 教職員の指導負担軽減

● 配置可能人員拡充

年度	運用基準	配置人数（実績）
令和4年度	週：Max11時間まで、年：Max515時間まで	3人
令和5年度	週：原則6時間以内、年：210時間以内	7人

※ 5年度、上記7人以外で学校から部活動指導員配置に関する相談・・・7件
（陸上2、バスケットボール2、バレーボール1、バドミントン1、剣道1）

**6年度、県教育委員会の人材バンクが運用開始となる予定
高松市スポーツ協会とも連携しながら人材の確保を強化**

4-(2)学校の困り感等の実態把握

各校の部活動状況や地域の実情等をリサーチ

コーディネーター活用事業を運用予定

役職	主な役割
総括コーディネーター	関係部局、教育委員会、他の自治体、競技団体等との連絡調整 など
コーディネーター	地域や学校現場の実態把握、周辺校との調整、地域移行化する活動のサポート など

- 運用開始予定・・・令和6年5月～を予定

4-(3)実証事業

地域移行の実現に向けたモデル検証

- 5年度事業の継続・拡充

	5年度の実証内容	6年度の改善点
TESC	市主催モデル	実施内容のシリーズ化、競技・種目への接続
軟式野球	地域人材活用モデル	活動場所の確保、連携団体等の確保
柔道	既存団体活用モデル	運営主体の構築、活動拠点（クラブ化）
吹奏楽	民間委託業者活用モデル	

地域移行のスケジュール

